

緩和ケア病棟における認知機能低下患者の嗜好・関心を反映した活動支援と ADL 低下の経時的変化との関連

1. 研究の背景と目的

終末期のがん患者様、特に認知機能の低下がある方は、入院後に食事・排泄・歩行などの日常生活動作（ADL）が低下しやすい傾向にあります。本研究では、リハビリテーションにおいて「患者様ご本人が大切にしている活動や興味のあること」を積極的に取り入れる支援を行い、それが ADL の低下を緩やかにできるかどうかを検証します。

2. 対象となる方

- ・当院の緩和ケア病棟に入院されるがん患者様
- ・認知機能の低下（物忘れ等）が認められる方
- ・主治医がリハビリテーション可能と判断した方

3. 研究の方法

標準的なりハビリを行うグループ（対照群）と、以下の「個別化活動支援」を行うグループ（介入群）の経過を比較します。

- ・個別化活動支援の内容：
 - ・専用のカード等を用いて、ご本人が「大切にしたい活動」を選択します。
 - ・選択した活動（趣味や身の回りの動作など）をリハビリの中で実施します。
 - ・活動の様子を評価（必要に応じ動画撮影）し、より良い支援につなげます。
- （動画撮影は別途同意をいただいた方のみ行い、厳重に管理します）

4. 評価項目

- ・主要な指標：日常生活動作（FIM スコア）が、1 週間あたりどの程度の速度で変化するか。
- ・副次的な指標：自立して動ける期間がどの程度維持されるか。

5. 個人情報の保護について

研究参加される患者様には、研究内容を十分に説明し同意書を頂きます。研究から得られた情報は、研究のみに使用します。研究結果は院内の研究発表や学会で発表することがありますが、個人が特定されるような情報を公表することは決してありません。本調査へのご協力をお引き受け頂いた後も、患者様に不都合が生じた場合は、いつでも協力の同意を撤回することが出来ます。

5. 利益相反関係については該当ありません。

<連絡先>

研究実施者：中西 和敏

所属施設：社会医療法人有隣会 東大阪病院

職業：理学療法士

住所：〒536-0005 大阪府大阪市城東区中央 3 丁目 4-32

TEL：06-69 39-1121(代表) TEL/FAX：06-6933-8133(直通)